
Want to protect

MARIMO

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Want to protect

【Nコード】

N8917P

【作者名】

MARIMO

【あらすじ】

2つの世界、エスペランサとウォルフ。エスペランサは神によって創られた未来型都市国家。そんなエスペランサとは対照的なウォルフ。ウォルフには魔術や剣術などの優れた人々が暮らしていた、

2つの世界

神クルー・エルに創られた世界、エスペランサ。エスペランサの医療、施設などの技術は異常な程に発達していた。そんな世界を創造したクルー・エルを人々は守護神と敬い政府の統治下のもとで暮らしていた。そんな世界とは対照的なのが人が創りだした世界ウオルフ。ウオルフに住む人々は魔術や剣術などに優れていて自分の身は自分で守っていた。そお遠くないこの2つの世界に住む人々はただ互いの存在に気づいていなかった。そのおかげで今までは力の均衡が保たれていたのだった。

リンとオーウェン

リンとオーウェンは兄弟だった。ウォルフのベイリーという名の国にあるリップル村で2人きりで暮らしていた。両親はオーウェンが8歳、リンが2歳の時に死んだ。2人もそれを村長から聞かされ、実際に死んでいる姿をみたわけでもなく死因を知っているわけでもなかった。リンもオーウェンも魔術はそこそだが剣術に右に出る者がいないほど優れていた。村のすぐ隣には森があった。その森から魔獣や魔物が村に出てくるとすかさず2人が退治した。村人からの信頼も厚く2人は充分それこそ両親はいないが幸せと呼べるぐらいの生活はしていた。

「明日からアダム王の用心棒をすることになったんだ。」

夕食の時、オーウェンが急に話をきり出した。リンは口に運びかけていたスプーンを皿に戻した。

「用心棒って、カンテはどうすんだよ。」

カンテはオーウェンの婚約者で隣りの村に住んでいた。

「結婚式は3日後ってだろう。どこまで行くんだよ。」

リンは身を乗り出した。

「まあまあ落ち着け。」

オーウェンはリンにちゃんと座れとあごで示した。

「ヴェツカ王国のオスカー王と密会するみたいだ。それまでに無事に連れて行くのが任務なんだ。」

リンは呆れたように首を振った。

「兄貴はさあ、そんなに馬鹿だっけ。こんな小さな国から国へ行くだけで3日なんていらねーよ。」

オーウェンはため息を小さくついた。

「これは極秘任務なんだぞ。そりゃ魔獣を召喚して空を飛んで行けば2日だっていらぬよ。でも魔法を使えばアダム王を殺そうと思っっている連中ならすぐに感知して居場所をつきとめるだろ。普通の

用心棒ならわざわざ田舎村の俺を指名しないだろ。」

リンは再びスプーンを口へ運び右腕にある蝶のタトゥーの傷跡を左手で抑えた。

「じゃあ、あたしはどうすればいいんだよ。もし、この蝶がまた封印をといたら、、、時々、痛いんだ。もうすぐ封印が解けそうな気がする。」

リンの右腕には蝶のタトゥーが生まれた時からあった。1度だけその蝶のタトゥーがとてつもない魔力を出したことがあった。

3年前のこと。リンが15歳の時だった。突然、タトゥーからまばゆい光が放たれ、その光がリンを包みこんだ。リンは不気味なうめき声を上げてもがきだした。口からは牙がむき出して爪は魔獣のように長くなつていてとても人間とは呼べない姿になっていた。オーウエンは衝動的にリンの腕のタトゥーを近くにあった剣できりつけたのだった。リンはおぞましい叫び声を上げて気を失い倒れた。光は同時に消えた。光に包まれた後、牙や長かった爪は元に戻ったがリンの美しかった金髪の髪の毛や眉毛が真っ黒になっていたままだった。後で分かったのだが瞳の色も青色だったはずが黒色になっていたのだった。オーウエンはそれからリンを隣りの村の教会に連れて行きあのタトゥーを封印してもらったのだった。

「村には教会があるし、カンテの家に行ってきたほしいんだ。」

オーウエンはリンの黒い瞳をゆっくりと見つめた。

「えっ。」

リンは食べていたスプーンのにんじんを喉に詰まらせそうになりグラスの水を勢いよく飲んだ。

「ちよつと、待てよ。だって、あたしカンテと違って1度しか会ったことがないんだぜ。それに暴走したあたしをカンテが止められると思うか。」

「カンテの姉は槍の使い手だし魔術にも腕を磨いている。祖母は魔

導師らしいしな。それにカンテだっ 回復魔法はずば抜けてできるからこの村にいるよりはいいと思うんだけどな。」

オーウエンは腕組みをして椅子の背もたれにもたれた。

「そんな、見ず知らずの怪物にもなる男みたいな女、誰が引き受けると思う。」

リンは諦めたように言った。

「リンは怪物じゃない。それに言葉づかい以外は普通の可愛い女の子だよ。カンテだってもうじきお前の家族になるんだから大丈夫だ。もし何かあったら俺の大切な1人だけの妹だ、絶対に助ける。」
オーウエンはリンを真っ直ぐに見つめた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8917p/>

Want to protect

2011年1月9日07時04分発行